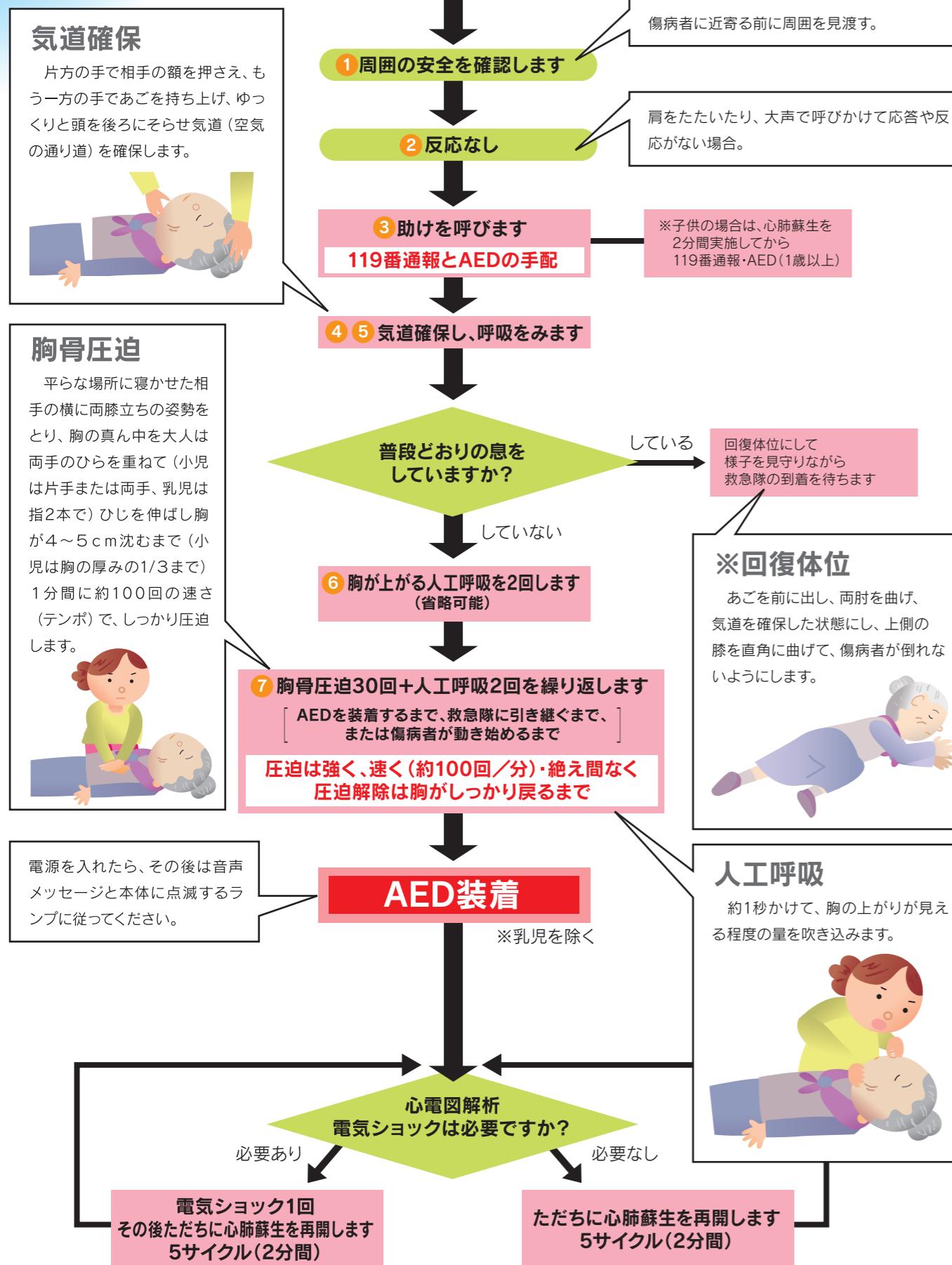


行動する

心肺蘇生法の流れ



注1) 成人…8歳以上、小児…1歳以上8歳未満、乳児…1歳未満

注2) AED…心室細動を起こした人に取り付け、電気ショックを与えて心臓の動きを取り戻すための救急機器

！倒壊家屋から人を救出するには

覆い被さった倒壊物などは車で使うジャッキなどで持ち上げます。無事救出してもクラッシュシンドローム（※）と呼ばれる現象が人体に起きた場合があるので、できるだけ早く作業しましょう。



※クラッシュシンドロームとは長時間血液の流れが止まっていた状態にあった体に、筋肉組織が破壊されて出る毒素がまわり「高カリウム血症」になり、腎臓や心臓に悪影響を与えて死に至らしめるもの。人工透析や点滴、輸血などの早急な医療処置が必要。

！打撲や骨折、やけど、傷を負った場合には

- 打撲**…………患部に冷湿布薬を貼ります。ないときは氷水をビニール袋に詰めて冷やしたり、ぬれたタオルなどで腫れをやわらげます。
- ねんざ・脱臼**…患部に冷湿布薬を貼ります。脱臼なら三角巾や風呂敷で患部の関節が動かないよう固定。無理にもとに戻そうとすると神経や血管を破損されることになるので注意しましょう。
- 骨折**…………患部に添え木をして固定し、布などで縛ります。添え木にはダンボールや雑誌なども代用できます。患部を動かすのは禁物です。
- やけど**…………痛みがとれるまで氷水で冷やします。服の上からやけどをしたときには、服の上からそのまま冷やします。冷やした後は清潔なガーゼかタオルで覆います。
- 外傷や出血**……傷口が汚れていたら清潔な水で洗い流します。傷口ができるだけ心臓より高くし、止血するときはガーゼなどを直接傷口に当て、手のひらで圧迫。それでも止血できないときや、骨折などで圧迫できないときは、傷口より心臓に近い動脈をタオルなどで強く縛って止血します。30分以上は締め付けないようにしましょう。

！負傷者を救護・搬送するには

応急救手を行ったら、次に負傷者を医療機関や救護所に搬送することが必要な場合もあります。日ごろから場所を確認しておきましょう。

応急担架を使って搬送

雨戸やふすま、物干し竿、毛布、衣服、椅子などを組み合わせ、担架の代用にすることができます。



人手による搬送

- ①背後から引きずりながら運ぶ…けがをした足を動かさないよう、後ろから介護しながら支えて歩行します。
- ②背負って運ぶ…負傷者の体重が背中にかかるように負傷者の両手首を握って前方に引き、両膝を引き寄せて抱え込むように運びます。
- ③横抱きで運ぶ…安心できるように話し掛けながら両手で抱え込んで運びます。
- ④負傷者の前後を抱えて運ぶ…三本組み手を搬送者の二人で組んで、椅子に座らせるようにして運びます。
- ⑤重度の負傷者の搬送…負傷者の体の下に手を入れて負傷者の体をできるだけ水平に保ったまま静かに運びます。



※脳内出血をしていると思われる場合は動かさず、救急車を待ちます。

◆救急救命講習を受けたいときの問い合わせ先 近くの消防本部、消防署

なまず博士からの緊急指令 地震から身を守ろう!